

CSDB

Chugoku-Shikoku Defense Bureau

中国四国防衛局広報誌



中国四国防衛局

Vol. 62

Dec. 2023

目次 Contents

- 1 日米交流事業「日米子供サッカー」(山口県周防大島町)
- 4 第36回 防衛問題セミナー(高知県高知市)
- 5 令和5年版 防衛白書の地方公共団体への説明
- 6 原村演習場における米軍単独訓練の実施
- 7 建設工事による完成施設(第一術科学校 候校教育館)
- 8 第81回 岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会
- 9 令和3年度計画護衛艦 命名式・進水式 艦名「ゆうべつ」
- 11 小型無人機等飛行禁止法に基づく対象防衛施設の指定
- 12 令和5年度 在日米軍従業員永年勤続者表彰式
- 13 米海兵隊岩国航空基地イベントの紹介
- 14 令和5年度 中国四国防衛局永年勤続者表彰
中国四国防衛局職員日記(岩国防衛事務所)
- 15 中国四国防衛局岩国防衛事務所のご紹介



表紙について
令和5年11月11日(土)
日米交流事業
「日米子供サッカー」

中国四国防衛局
広報
X(旧Twitter)
@chushiDB_koho



CSDB

Chugoku-Shikoku Defense Bureau



Vol. 62
Dec. 2023

編集・発行
中国四国防衛局
(広報委員会編集)

〒730-0012
広島県広島市中区
上八丁堀6-30

Tel
082-223-7109

中国四国防衛局HP



編集後記
これからも中国四国防衛局の情報をお届けします!



— 令和5年度日米交流事業 — 日米子供サッカー in Suo-Oshima 2023 令和5年11月11日(土)



開会式 → ウォーミングアップ





日米交流事業「日米子供サッカー」（山口県周防大島町）

令和5年11月11日、山口県周防大島町にある周防大島町陸上競技場において、当局主催による日米交流事業「SUO-OSHIMA日米子供サッカー」を、周防大島町、米海兵隊岩国航空基地共催で開催しました。

当日は天候に恵まれ、周防大島町、岩国市、米海兵隊岩国航空基地のサッカーチームなどに所属する児童約70名が参加しました。



中国四国防衛局企画部長
柴山 憲一



米海兵隊岩国航空基地補給部長
ダニエル・フィッツジェラルド中佐



周防大島町教育長
星野 朋啓

参加者はくじ引きで5つの日米混合チームに分かれ、練習を行った後、5チーム総当たりの試合を行いました。子供たちは日米の垣根を越えてサッカーを楽しみました。

参加した子供たちからは「楽しかった」「また参加したい」といった感想が寄せられ、大変盛り上がりしました。

中国四国防衛局では、今後も地域の皆様の協力を得て、在日米軍との相互理解を深めるための交流施策を実施してまいります。



第36回 防衛問題セミナー（高知県高知市）

令和5年11月21日、高知県高知市の高知市文化プラザかるぽーとにおいて、当局主催による防衛問題セミナーを開催しました。

本セミナーは、防衛政策全般に対する国民の皆様の理解促進のための施策として、平成19年から地方防衛局主催で開催しているものです。高知市での開催は2回目で、当日は約90名の方々が来場されました。



高知県危機管理部長
中岡 誠二



陸上自衛隊第14旅団長
陸将補 大場 剛

今回は「南海トラフ地震に備えて」をテーマとして、第1部では高知県危機管理部長の中岡誠二氏より「高知県の南海トラフ地震対策」について、第2部では陸上自衛隊第14旅団長の大場剛氏より「南海トラフ地震における自衛隊の対応」について、講演いただきました。



本セミナーに来場された方々からは、「南海トラフ地震に備える大切さを再認識できた」「高知県と自衛隊の災害対策を聞いて安心できた」「自衛隊の災害派遣活動、がんばってください」などの多くの感想が寄せられました。



令和5年版 防衛白書の地方公共団体への説明

中国四国防衛局では、地域の皆様に防衛政策についての御理解を深めていただく一助となるよう、自衛隊地方協力本部及び関係部隊等と連携し、当局管内（中国・四国地方9県）の知事や市長等に防衛白書の内容について毎年説明を行っており、本年も各自治体を訪問しました。



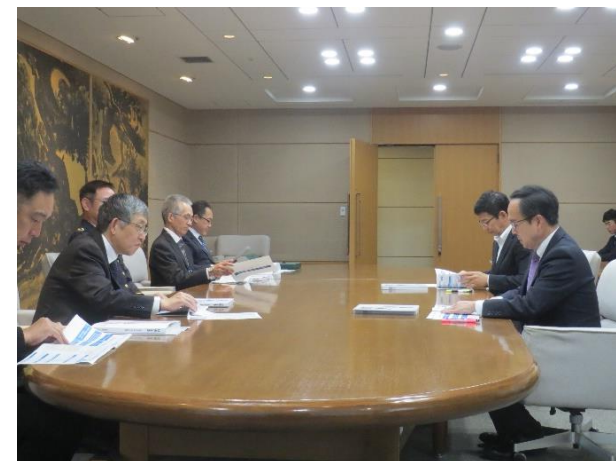
松井 広島市長への説明
(9月11日)



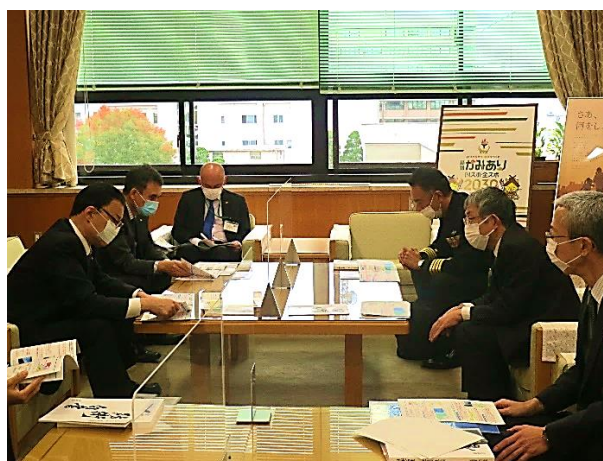
奥 奈義町長への説明
(10月6日)



後藤田 徳島県知事への説明
(10月19日)



池田 香川県知事への説明
(10月20日)



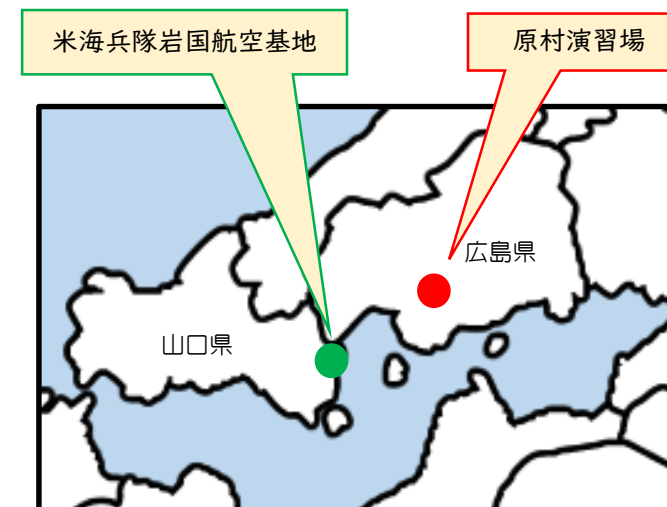
丸山 島根県知事への説明
(11月17日)



伊原木 岡山県知事への説明
(11月29日)



原村演習場における米軍単独訓練の実施



令和5年9月9日から15日までの7日間、広島県東広島市に所在する陸上自衛隊原村演習場において、米海兵隊岩国航空基地を拠点とし、主に飛行運用の支援を行う海兵第171航空師団支援中隊による単独訓練が実施されました。

本訓練は、平成3年8月に初めて実施されて以降、今回が53回目であり、演習場区域における一般訓練及び基本射場における小火器射撃訓練がそれぞれ実施されました。

本訓練の実施に当たり、当局はこれまでと同様、訓練前においては、訓練実施期間及び内容等を関係自治体等へ通知し、訓練期間中においては、当局職員を連絡員として現地に派遣し、米軍や自治体との調整や連絡など所要の対応を行いました。

訓練期間中、当局の西方局長が演習場を訪問し、米側の訓練責任者の案内の下、訓練の状況を視察して訓練が安全に実施されていることを確認しました。



一般訓練（障害物訓練）



西方局長による訓練視察

訓練部隊は、最大限の安全確保等を行い、訓練を無事に終えました。

また、訓練終了後には、演習場周辺の一般道路を汚さないよう、使用した車両の洗浄を徹底した上で岩国航空基地に帰還しました。



建設工事による完成施設（第一術科学学校 候校教育館）

調達部は、中国地区5県及び四国地区4県に所在する自衛隊駐屯地・基地等や在日米軍基地における施設の建設工事などの業務を担っています。

今回の完成施設は、広島県江田島市に位置する海上自衛隊 第一術科学学校 幹部候補生学校庁舎の候校教育館です。



この第一術科学学校 候校教育館は、昭和17年に建設された旧候校教育館が耐震基準を満たしていないことから、令和2年度から3か年をかけ建て替えました。

建設当時の面影を残しつつ、隣接する赤レンガ造りの幹部候補生学校庁舎との調和を図るため、壁面を赤レンガ調で仕上げています。



候校教育館は、幹部自衛官としての資質を養うために必要な知識及び技能を習得させるための訓育、体育、技能教育を年間約500名の幹部候補生に実施しています。

幹部候補生学校庁舎を含め、第一術科学学校地区には明治、大正、昭和の歴史ある建物があり、休日には一般に公開されています。

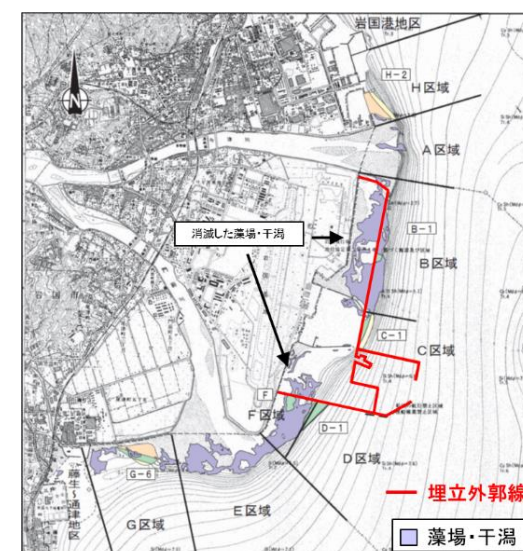


第81回 岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会

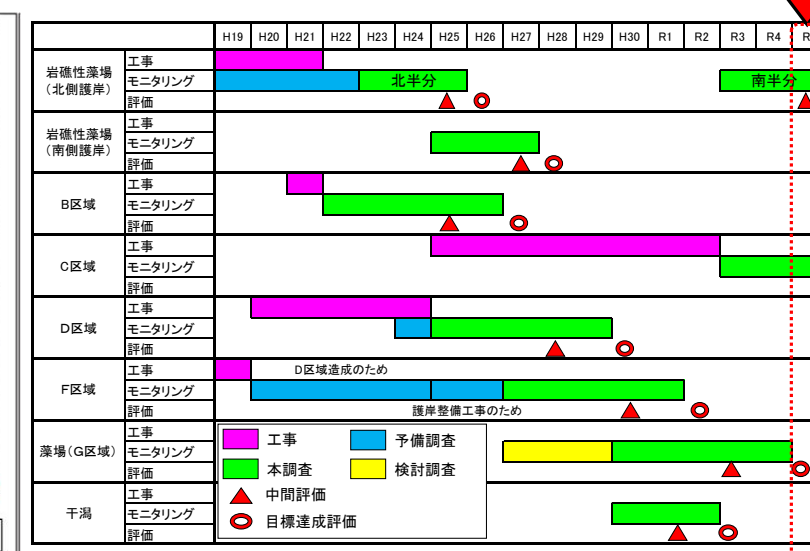
令和5年11月21日、広島市内の会場にて第81回 岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会を岡田委員長（広島大学名誉教授）ほか3名の委員の出席を得て開催しました。

今回の委員会では、令和5年1月から同年6月までの周辺藻場・干潟回復事業の進捗状況及びモニタリング調査の結果が報告されるとともに、令和4年度の藻場・干潟回復事業の進捗状況及びモニタリング調査結果について審議されました。その審議においては、藻場（G区域）【図-2】の目標が達成されたとする評価結果も承認されました。

（※ 当局HPに、これまでの審議概要を掲載しています。）



【図-1】



【図-2】

本委員会の審議内容

- ◇ モニタリング調査、試験の実施計画の策定に関すること。
- ◇ モニタリング調査及び試験の結果の評価、研究に関すること。
- ◇ 回復場所（工事も含む）、範囲及び時期に関すること。
- ◇ 埋立の実施に際し残存する藻場・干潟の保全に関すること。

委員会経緯

当局は、岩国飛行場の運用、安全及び騒音上の問題を解決し、米軍の駐留を円滑にするとともに、同飛行場の安定的使用を図るため、滑走路を沖合へ1,000m程度移設する岩国飛行場滑走路移設事業を推進することとなりました。これに伴い、海面の埋立事業を行うための滑走路移設事業の承認にあたって、山口県知事から「本埋立事業の実施により、藻場及び干潟が一部消滅することから、専門家の指導、助言を得て、本埋立計画地周辺海域において、最大限、新たに藻場及び干潟の造成に努めるとともに、藻の定着状況及び干潟の形成状況を計画的に監視する等により極力維持に努めること。」との意見が出されました。

これを受け滑走路移設事業の実施に伴う藻場・干潟の回復措置の対策に必要な指導・助言を行うことを目的として、有識者で構成された岩国飛行場藻場・干潟回復調査研究委員会が平成8年8月に設置されました。



令和3年度計画護衛艦 命名式・進水式 艦名「ゆうべつ」

令和5年11月14日（火）、岡山県玉野市に所在する、三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社玉野本社工場において、中国四国防衛局玉野防衛事務所が監督・検査を担当している令和3年度計画護衛艦「ゆうべつ」の命名式・進水式が行われました。

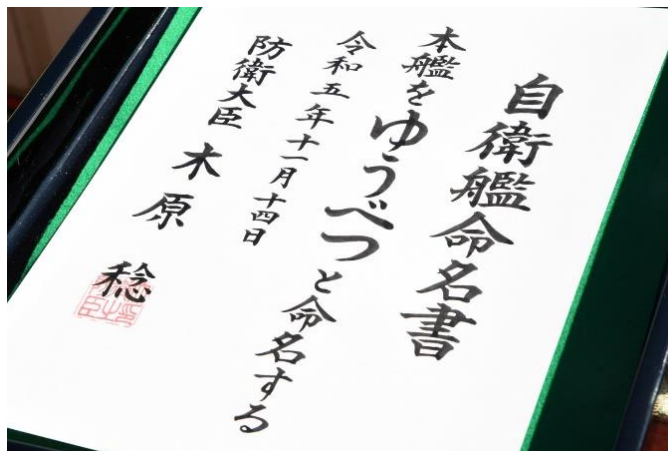
本式典は、酒井良海上幕僚長、市橋孝浩防衛技監、伊藤秀人海上幕僚監部装備計画部長、西方孝中国四国防衛局長そして三菱重工株式会社、三菱重工業マリタイムシステムズ株式会社の関係者が出席し、粛々に行われました。

命名式



命名式では呉音楽隊が「君が代」を演奏したのち、防衛省代表の酒井海上幕僚長が命名書を読み上げ、「ゆうべつ」と命名されました。

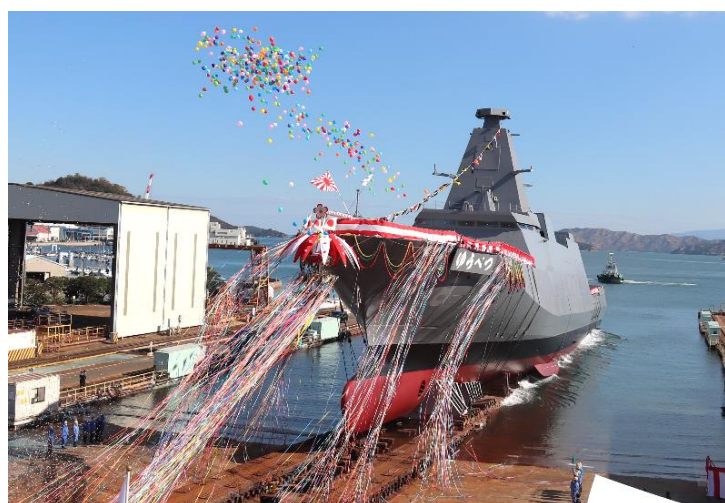
護衛艦は天象、気象、山岳、河川、地方の名を付与することが標準とされており、「ゆうべつ」は北海道を流れオホーツク海にそそぐ湧別川本流に由来しています。



進水式



引き続き、進水式では、支綱（しこう）切断台に斧がセットされ、酒井海上幕僚長が鋤を斧に向けて振り下ろし、支綱の切断を行いました。くす玉が割れ、呉音楽隊の奏でる軍艦マーチの中、「ゆうべつ」はゆっくりと進水しました。



「ゆうべつ」は令和7年就役予定となっています。中国四国防衛局玉野防衛事務所では引き続き監督・検査に万全を期して参ります。

写真提供：呉地方総監部広報室

護衛艦「ゆうべつ」命名式・進水式



護衛艦「ゆうべつ」

艦名の「ゆうべつ」は、北海道を流れオホーツク海にそそぐ湧別川本流に由来しています。湧別川は、遠軽町白滝の天狗岳に発し、流域内は酪農を中心とした農業のほか、林業・木材産業、水産業が盛んで、特に河口の湧別町は全国有数のホタテの産地となっています。艦名は、海上自衛隊内の募集結果及び各種検討を踏まえ、防衛大臣が決定しました。



写真提供：防衛装備庁・呉地方総監部広報室



小型無人機等飛行禁止法に基づく対象防衛施設の指定について

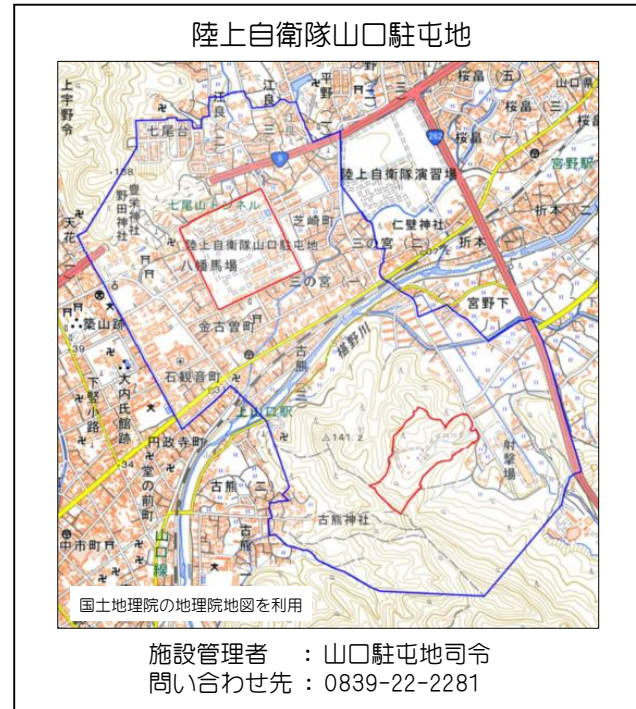
防衛省は、重要施設の周辺地域の上空における小型無人機等の飛行の禁止に関する法律（平成28年法律第9号）に基づき、対象防衛関係施設について順次指定を行ってきており、令和5年9月26日に自衛隊施設39施設を新たに指定する旨告示しました。

このうち、当局管内においては、4施設が新たに指定されました。

（陸上自衛隊2施設）米子駐屯地、山口駐屯地

（海上自衛隊2施設）小月航空基地小月射撃場、第1術科学学校長浜射撃場

対象防衛関係施設及びその周辺の地域の上空における小型無人機等（ドローン等）の飛行は原則禁止であり、飛行を行おうとする場合には施設管理者の同意を得る等所定の手続が必要です。



対象施設の区域
対象施設周辺地域

本件に係る詳細は、防衛省のホームページをご参照ください。
<https://www.mod.go.jp/j/presiding/law/drone/index.html>



令和5年度 在日米軍従業員永年勤続者表彰式

米陸軍第10支援群弾薬廠



米海兵隊岩国航空基地



令和5年10月13日、米陸軍第10支援群弾薬廠（呉市）及び11月15日、米海兵隊岩国航空基地（岩国市）に勤務する在日米軍従業員に対し、永年勤続者表彰式が令和元年以来、4年ぶりに開催されました。

呉では、呉市長、東広島市長（代理）、江田島市長及び全駐留軍労働組合広島地区本部執行委員長（代理）の、岩国では、岩国市長（代理）、岩国市議会議員及び全駐留軍労働組合山口地区本部執行委員長のご臨席を賜り、勤続40年、30年、20年及び10年を迎えた130名（呉29名、岩国101名）の受賞者へ中国四国防衛局長、第10支援群弾薬廠長及び岩国航空基地司令から表彰状と記念品が授与されました。

主催者の中国四国防衛局長から「長年にわたりそれぞれ重要な職務に精励されてこられた皆様に心から敬意を表します。これからも豊富な知識と経験を活かし、一層ご活躍いただくことをお願いするとともに、職場はもとより、さまざまな場面で日米両国の架け橋としてご貢献頂ければ大変ありがたく存じます。」と祝辞が述べられ、呉及び岩国の受賞者の代表者が「この意義ある式典を心の糧とし、長年にわたって培った知識や経験を活かし、これからも在日米軍施設の円滑な運営のため、従来にも増して職務の遂行に励み、日米両国の架け橋としての役割を果たしてまいります。」と謝辞が述べられました。

表彰式終了後は式典会場において記念撮影およびレセプションが執り行われ、終始和やかな雰囲気で行われ、式典は終了しました。



米海兵隊岩国航空基地イベントの紹介

米海兵隊岩国航空基地では、様々な日米交流イベントが行われています。その一部をご紹介します。

10月31日（火）夜、岩国基地内の住宅地区において、基地関係者や交流のある市民の家族など約1000人が招待され、ハロウィーンが開催されました。

基地内では、住宅を電飾で飾り付け、様々なキャラクターに仮装した米軍家族が、訪ねてくる子供たちにクッキーなどを渡していました。

参加者は、本場ハロウィーンの雰囲気を楽しんでいました。



11月19日（日）、岩国基地内において、「日米親善MCAS岩国ツール・ド・フライトラインサイクルロードレース大会」が開催されました。

今回初めて、滑走路をコースの一部として行われました。

このイベントにエントリーした基地内外の日米参加者は、滑走路やその周辺30kmコースと11kmコースを走り、親睦を深めていました。



（写真：米海兵隊提供）



令和5年度 中国四国防衛局永年勤続者表彰



長年の勤務にわたる功績をたたえ、それぞれ重要な職務に精励された5名の方々が、この度、永年勤続者表彰の対象となりました。

令和5年11月1日の「中国四国防衛局永年勤続者表彰式」において、対象となりました職員の方々には、中国四国防衛局長より日頃の感謝の気持ちとともに、長年にわたる功績を称え、表彰状と記念品の授与が行われました。



中国四国防衛局 職員日記（岩国防衛事務所）



（岩国防衛事務所 角本 知斗）

私は今年で入省3年目になり、昨年4月から岩国防衛事務所に配属になりました。出身は広島県の呉市、岩国防衛事務所では、労務関係の業務を担当しています。

1年目は、局内で勤務していたこともあり、まだ仕事に慣れないなかで局外へ異動することに緊張や不安などがありましたが、今では岩国防衛事務所の一員として楽しく過ごすことができています。

私の業務については、駐留軍労働者の方への給与の支払い、関係機関への保険料、税金の支払いなどを行っております。法令や規則など、理解をすることが大変で、日々、書類に追われる毎日ではありますが、上司や同僚にも恵まれ、業務外での、自分の時間を大切にしながら業務を行えています。

これからも、人と人のつながりを大切に、目の前の業務を一つ一つがんばっていききたいと思います！



中国四国防衛局 岩国防衛事務所のご紹介

岩国防衛事務所は、山口県の東部、錦帯橋で知られる岩国市に所在していますが、案内板等がなく、建物も平屋で目立たないため、具体的な位置を説明しておきますと、ＪＲ岩国駅から国道１８８号を約２Km南下した交差点を右折（左折すると岩国航空基地正門に至ります。）して、約１００m進んだ左手にある労働基準監督署の隣となります。



管轄区域は、山口県全域（１３市６町）と広島県大竹市ですが、駐留軍等労働者の労務管理業務に関しては、広島県も全域が管轄区域となります。

当事務所は、昭和２４年１月、公法人特別調達庁呉支局の出張所として発足以来、監督官事務所、調達事務所、防衛施設事務所と改称し、平成１９年９月の防衛省組織改編により「中国四国防衛局岩国防衛事務所」として現在に至ります。

管轄区域内には自衛隊及び米軍の施設が所在しており、主な施設は陸上自衛隊山口駐屯地、海上自衛隊小月航空基地、海上自衛隊下関基地隊、海上自衛隊岩国航空基地、航空自衛隊防府北基地、航空自衛隊防府南基地、米海兵隊岩国航空基地となります。

業務としては、自衛隊等の行為又は防衛施設の取得、設置若しくは運用に伴って生じる障害の防止等の措置や損失の補償、建設工事を実施するための連絡調整業務並びに防衛政策全般についての地方公共団体及び地域住民の理解及び協力を確保するための連絡調整業務のほか、米軍による事件・事故への対応並びに駐留軍等労働者の労務管理、給与等の支払い及び福利厚生等の業務も行っています。

防衛施設の安定使用は、地域住民の皆様方のご理解・ご協力があるものですので、地方公共団体を含め、地域住民の皆様方から信頼されるよう、本局指示の下、適切な業務遂行に努めていきたいと考えておりますので、よろしくお願いします。

当事務所が所在する岩国市の名所、名物を少しだけ紹介します。

■錦帯橋。世界的に珍しい技法で作られた木造橋であり、世界遺産への登録を目指しています。



■岩国ずし。寿司飯と具材を何層も重ねた押し寿司で、食文化と歴史を象徴する料理のひとつです。

